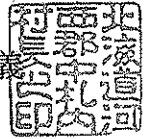


中 企 財 号
平成19年4月26日

国土交通省道路局長 様

中札内村長 田 村 光



中期的な計画の作成にあたっての意見の提出について

このことについて、別紙のとおり提出いたします。

総務課まちづくり推進室
室長 山崎恵司
tel : 0155-67-2311

中期的な計画の作成にあたっての中札内村の意見

1 今後の道路行政に必要なこと

北海道における公共交通は、広大な面積を持ちながら人口の密度が低いことなどから、費用対効果の名のもとに切り捨てられてきており、鉄道から民間バスへ、民間バスから市町村独自運営バスへなど、各自治体では道路を基盤とする住民の足の確保に対応を迫られている状況です。

そのような中で車に依存する割合が高くなるのは必然と言えるでしょう。

広大な北海道において「真に必要な道路」とは、都市と地方を結ぶ幹線にとどまらず、そこにアクセスする市町村道等をも含むものであり、地域住民が安心して快適に暮らしていくことが可能となるものでなければならぬと考えます。

2 特に優先度の高い道路政策について

《道路ネットワークの整備》

- ・ 北海道がもつ豊かな自然環境や食糧基地としての優位性を活かし、地域活性化や物流のため都市と地方そして観光資源を結ぶ高速・高規格道路の整備は早期に整備を進める必要があると考えます。
- ・ 本村においては、平成13年に「豊かな自然を未来につなぐふるさと景観条例」を制定するとともに、自然と共生する潤いのある村づくりを目指して、景観形成指針を策定するなかで具体的な取り組みを進めているところであり、南十勝をエリアとする「シーニックバイウェイ」構想もあることなどから、今後の道路整備にあたっては、案内標識、スノーポールなどの道路構造物の形状やその必要性など、景観に配慮した整備のあり方について、中期的な計画の中で位置付けるべきと考えます。

《冬期間における安全確保》

- ・ 日高山脈の麓に位置する本村は、冬期間の降雪量が十勝管内では多い方で、また最低気温もマイナス20℃を超えることから、路面はアイスバーン状態になることも多く、冬期間における運転者の不安感は増大し、住民生活に与える影響は非常に大きいと言えます。

市町村道から国道・高規格道路まで、安心して走行できるように除雪や排雪、路面の整正など除雪体制確保のための費用を道路特定財源により充実する必要があると考えます。

3 効率化を徹底的に進める上で重視すべきこと

- ・ 北海道の道路整備において効率化を進める上では、早期発注と工事のスピードアップを図り、出来るだけ凍上等による完了後の手戻りが発生しやすい冬期間工事を避けるよう努めることが必要と考えます。
- ・ 夏季の花植えや除草、冬季の歩道や交差点の除排雪など、道路管理における沿道住民等の協力体制整備のための理解活動を進めることが必要と考えます。
- ・ 近年市町村の道路改良舗装率は向上し、快適な住民生活を送ることが可能となっています。しかし、今後は、財政支援のない維持管理費用の増大が市町村の財政に重くのしかかり、更に、既存道路の補修、再整備には、通行性・安全性の確保だけでなく、景観や環境問題などにも配慮が必要となってきていることから、その財源に対する支援の拡充が必要であると考えます。
- ・ 既存ストックの活用促進を図るため、高速道路の弾力的な料金割引を積極的に進める必要があると考えます。

4 その他、道路政策や道路の整備・管理全般に関する意見

- ・ 道路整備や改修などの計画策定にあたっては、地域の理解が重要であることを踏まえ、沿道住民や行政を巻き込んだワークショップの開催など、住民との協働の取り組みが必要であると考えます。